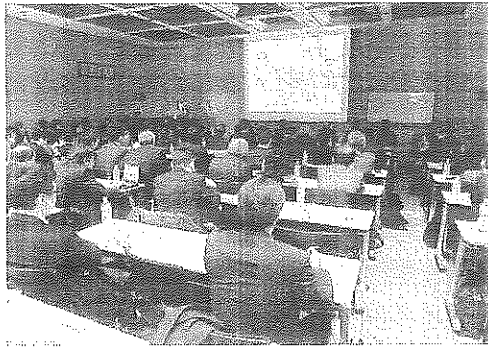


物流の再興戦略学ぶ

データ・テックとイーソーコがセミナー

↓ 4人の講師が自説を披歴

データ・テック(田野通保社長)とイーソーコ(遠藤文社長)は10日、



東京都新宿区の東京都トラック総合会館で「日本再興戦略―物流版―」と題したセミナーを開催し、物流企業の経営者を対象に、アベノミクスの成長戦略である「日本再興戦略」の中で物流業界はどう対処すべきかをテーマに4人の講師が経営戦略への指針や具体的対

策と物流の関係を説明。各企業の物流における先進事例等を紹介した。

処法を講義した。約150人が参加。

第1講座では、「日本企業の競争力に資するSCM・物流の新たな方向と施策」と題し、田村耕司コマツ物流前社長が講演。

企業の競争力向上への重点項目として、PUL L・SCM型最適化TMS「自律調整型チェーン同期システム」クロソノリス・サポート・パイヤーズ・コンソリ」を挙げ、そのなかで、グローバル生産に対応した「クロソノリス・サポート・パイヤーズ・コンソリ」は、その発想や言葉もない15年以上前に新物流企画として実施したと説明し、現地生産管理レベルの把握と、機能の拡張、効率の徹底追求、為替の対応など同システムを実施する上で最先端のしくみと技術を導入することが重要と話した。

第2講座では、「日本再興戦略―物流に何が起き、どこが変わり、どう備えるか―」と題し、花房隆ロジスティクス・トレン社長が、アベノミクス3本の矢を軸にした政

策と物流の関係を説明。各企業の物流における先進事例等を紹介した。

第3講座では、田野データ・テック社長が、同社のドライフレコーダー製品「セイフティレコーダ(SR)」の開発経緯や今後の見通しなどを報告。

SRでは、事故要因の「見える化」を重点に、これまでのデジタコ機能や映像記録に加え、危険個所をドライバーに知らせる「セイフティマップ」機能などを搭載し、ユーザーの事故削減に高い効果を挙げているほか、燃費改善にもつながっているとした。また、事故の予兆を検知するシステムについて東京大学と研究を進めており、今後商品開発につなげていく可能性を示唆した。

第4講座では、大谷廠一イーソーコドットコム会長が「物流ユーティリティプレイヤー」が物流を変革する」と題し、「組んでよし(物流営業) 打ってよし(不動産業)」の攻守のバランスを持った物流人材の育成が重要であることなどを力説した。